

# 桜歯 ニュース

2020. 10. 15  
VOL.208



日本大学歯学部ホームページ : <http://www.dent.nihon-u.ac.jp/>



## COVID-19に打ち勝って、教育力の持続・発展

歯学部長 本田 和也

この度、9月1日付けで学部長を再任いたしました。ご支援を賜りました皆様には厚く御礼申し上げます。現在の国際情勢はCOVID-19の蔓延により、大変厳しい状況であり、日本国においてもいつ感染拡大がおきるかわからない状況です。学生、ご父母、教職員、患者さん、同窓会等多くの皆様には、遠隔授業、入構制限、感染対策等で大変なご無理・ご負担をしいていると思いますが、ご理解頂いていることに心より感謝申し上げます。

本学部からクラスターを出さないようにすることが、最も重要だと考えています。学生諸君には不便な事が多いと思いますが、歯科医師を目指す学生として、3密を絶対に避けるようにしてください。

歯科大学を取り巻く環境もまた極めて厳しい状況下にあります。このような状況下で、本学部は日本大学教育憲章の元で自主創造の三要素である「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」能力を身につけた学生を育成していきます。さて、私の学部長としての任期も二期目に入りましたが「日本一教育力のある歯学部」、「社会に有為な歯科医師の養成」を目指して、今日まで教育力の充実を図ってきました。歯科学統合演習等改革を始めてから6年が経ち、本年は完成年度を迎えます。これからの3年間は我々にとってその集大成です。学生、教職員が一丸となって「6年生の全員卒業・国家試験全員合格」の夢を取りにいきましょう。

(教授 歯科放射線学講座)

## 歯学部長の抱負 -新たな3年間について-

歯学部長 本田 和也

先般の学部長候補者選挙におきましては、多くの皆様のご理解、ご支援をいただき、104年の歴史と伝統ある本学部の学部長に再任させて頂きました。

この場をお借りして御礼、感謝申し上げます。

本学部の発展のために執行部が一丸となり、教職員の皆様の後押しと協力のもとで、教学と管理運営の最高責任者としてその職責を全うする所存です。

歯学部の現状と課題として今回は4つのお話をさせていただきます。

### 歯学部の現状と課題

#### 1) 教育改革について

本学部において歯科医師国家試験に向けた教育対策こそが最重要課題と考えております。

本年行われた第113回歯科医師国家試験では、全国総数で、受験者数3,211人に対して合格者数は2,107人(合格率65.6%)でした。本学部は、受験者198人中、合格者は130人(合格率65.7%)でした。新卒の受験者129人中、合格者数91人(合格率71.7%)でした。この結果は昨年より若干の向上がみられましたが、残念ながら新卒と既卒者あわせて68名が合格に至りませんでした。

本学部では募集定員と同数の128名の合格を目標とした取り組みが行われてきました。平成27年度から各学年に導入した「歯科学統合演習Ⅰ～Ⅵ」はようやく6年目を迎え、ここからが本学部の勝負の年と考えています。

学生、ご父母、教職員の皆様、「6年生の全員卒業・全員合格」の夢に向かって進みましょう！

本学部の教育改革として、再入学制度の門戸も開いていきます。令和3年より真摯に歯科医師を目指す人を応援する基本方針から、過去に上級学年で退学された学生の方を積極的に受け入れていきます。高い学習意欲のある方なら、希望者の学修履行能力を評価し再入学を認めて参ります。

今後も、1人でも多くの学生が国家試験に合格できるように、しっかりと「学生と向き合う」教育を推進していく所存です。

#### 2) 佐藤会の充実について

私は本学部の創設者である佐藤運雄博士の「医歯一元論」と「和の精神」が歯学部の教学理念の根本であると思っております。

佐藤会は、佐藤運雄先生のご遺徳を称えて開催

される歯学部及び歯学部同窓会の共催事業です。本会の由来は歯学部基礎学教室の研究員によって構成された「研友会」の昭和27年度総会に遡ります(日本大学歯学部百年史)。当時の会長を務められた阿久津正六先生(専門部8回卒)が既に古希を迎えられていた佐藤運雄博士の誕生日を祝う会を、毎年定期的に開催することが提案され、決定されたことが始まりです。ところが近年では、佐藤会が参加者数の減少がみられる状況下にあります。佐藤会の充実、本学部の取り組むべき重要課題の一つと考え、同窓会の先輩方とともに対策を講じ改善を図って参ります。

#### 3) 教員の評価について

歯学部教員の「教育実績評価」を行うことが急務と考えています。本学部では日本大学教育憲章制定に伴う法人及び大学全体の教学方針が示されたことを念頭に、平成29年度の歯学部基本計画の骨子を踏まえ、「学生と向き合う」教育に対する在り方を学部内外に示すべく、学部長ガバナンスの基本方針のもとで教員教育評価指標を策定することとしました。現在まで、2度にわたるトライアルを行い、意見聴取を行っています。今後、引き続き本学部の教学運営に関するPDCAサイクルを行って教員教育評価指標の数値目標を設定し、任期中に教育評価を教員全員に行い、教員採用に利用する予定です。

#### 4) 歯学部付属専門学校について

歯学部には歯科技工専門学校と歯科衛生専門学校の二つの附属専門学校があり、どちらも充足率の問題があります。今後の運営・経営の在り方について学部として運営の改善について協議・検討していきます。

#### まとめ

本学部は佐藤運雄博士が大正5年に創設してから104年を迎えました。この歴史と伝統を生かし、日本大学の教育理念に基づいて、21世紀の高度な歯科医療に適切に対応しうる自主創造型の医療人を育成するために、「日本一教育力のある歯学部」、「社会に有為な歯科医師の養成」を目指します。

言うまでもなく、本学部の運営は、学生、教職員、ご父母、同窓会が一体となって、初めて成しえることです。本学部の今後益々の発展のためにご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 新型コロナウイルス感染に対する学部への対応について

歯学部 本 田 和 也

ご父母の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症拡大のため、ご子女の教育・生活についてご心配されていることと推察いたします。私から歯学部の現状につきましてご報告いたします。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら3月の卒業生の謝恩会が中止となり、卒業式は学生と一部教員だけの開催となりました。また4月の入学式も、政府より緊急事態宣言が発出されたため、ビデオ録画での公開になりましたことをご理解いただきたいと思います。

前期の授業ですが、本学部では第5、6学年は4月15日(水)から、第1～4学年は5月11日(月)から全授業をオンラインで実施し、8月28日(金)に終了しました。当初はインターネット接続の問題や、提出物量についての意見もありましたが、これらにつきまして学生と教員の弾力的な努力のもとで対応・調整を無事に行なうことができました。

オンライン授業の評価ですが、教科によっては学生とのコミュニケーションが対面授業よりも取りやすくなったとの報告も受けています。学生アンケート調査でもオンライン授業の満足度は比較的高い結果を載せました。

一方、オンライン授業の限界として学生達の生活面での確認ができていないことが懸念されています。実際に一部の学生から精神的にかなり疲れているとの報告もあり、現在も学年主任、クラス担任、ティーチングアシスタントにより、彼らの心のケアにあたっております。

後期の授業についてご説明をいたします。歯科医師になるためには、どうしても実際に対面で行わなければならない実習・演習がある事をまずご理解ください。学生や教職員に対する感染を防ぐために、後期も授業は全面オンラインで行い、実習・演習はクラスの人数を半分に分け対面形式で行っています。対面形式では、最大限に感染を防ぐように三密を極力避け、マスク・フェイスシールド(同窓会寄贈)・グローブの使用を徹底しています。これからが学生として大変重要な時期を迎えることとなります。

新型コロナウイルス感染症の収束に時間を要する現状では、ご父母、教職員の連携がどうしても欠かせません。

皆様のご理解とご支援、そしてご協力を引き続き賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(教授 歯科放射線学講座)

## 前期遠隔授業を終えて

遠隔授業小委員会委員長 松本 邦史

他学部にも先立ち第5、6学年を対象に遠隔授業の試験運用を開始した直後、5月11日から全学年での全面遠隔授業の実施が決まりました。埃のかぶったPCやモニターも総動員し、どうにかGW中に全学年分の計8配信ブースについてセットアップが完了しました。本学部の遠隔授業のシステムは、学生の皆さんが迷うことなく、日程確認、資料配布、受講、質問、フィードバックまでをシームレスで行えることを重視し、システム構築を行っています。幸い本学では、教育機関用Googleサービスを利用できたことで、予想以上のシステムが出来上がったと思います。一部学年では、双方向ビデオシステムを用いたグループワークやオンライン実習のほか、eラーニングシステム(SATT)を併用した平常試験やポストテストが行われています。

教員も慣れない作業だったため、授業中にさまざまなトラブルがあったことは、学生の皆さんも画面の向こうから気が付いていたと思います。学生の皆さんは、やはりデジタルネイティブと言われるだけあって、設定に関わる指示をいとも簡単に完遂してくれました。対面授業とは大きく異なる環境で、勉強に集中できないなどの声も散見されますが、9割超の学生の皆さんに「満足」以上の評価を頂いたことは、教員、職員が一丸となって遠隔授業に取り組んでいる結果と考えています。また、歯学部の遠隔授業がより良いものとなるよう、今後も意見や要望をお待ちしています。後期より一部で対面授業が実施されますが、このwithコロナ時代を乗り越えるため、遠隔授業と対面授業のそれぞれの利点をうまく利用し、効率的に学修して、自分の目標へ向かって頑張ってもらいたいと思います。

(准教授 歯科放射線学講座)

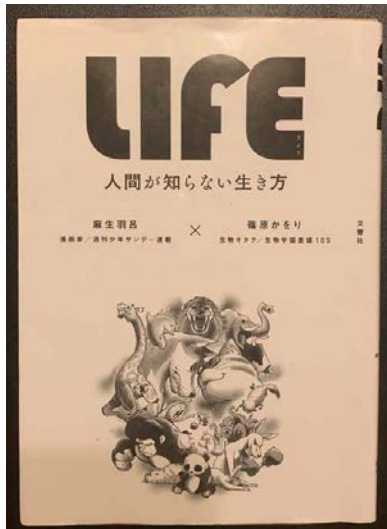




## 「LIFE 人間が知らない生き方」 麻生 羽呂、篠原かをり

福本 真実

タイトルからは想像できないかもしれませんが、実は、この本はビジネス書です。私はこれまでビジネス書を読んだことがありませんでしたが、読書好きな友人の勧めや、自分が社会人になったこともあり、いい機会だと思い手に取りました。



本書は、様々な生き物の生き方から、自分たち人間が学べること、生きる上で大切なこと等、人間ならではの生き方について述べられています。動物好きな私にとって興味深い知識も多く、また、漫画があることでビジネス書という堅いイメージもなく、読みやすい本でした。

私は特に、ミツバチの生き方、働き方が印象に残りました。私は今年の4月から社会人となり、働くことがどれだけ大変なことを身をもって感じるが多くなりました。ミツバチはそれぞれが重要な役割を担い、互いに協力し合うという人間と似た集団生活を営んでいます。その結果、組織としての統率力に秀でています。しかし、中には人間と同様に、働くことが苦手なハチや、優秀なハチがいます。優秀なハチは働きすぎて、自分の命さえも危うくなることがあります。そんなミツバチの生き方から、限られた時間の中で、私たち人間は何のために生きて、どう時間を使うかを改めて考えさせられました。

また、ミツバチがそれぞれの仕事の中で役割を持っているように、私も働く上で、自分の役割を見つけ、仕事を効率的に行うことで組織の一員として貢献できるようにになりたいと思いました。

私は今回、ミツバチから仕事をする上でのヒントを学びましたが、本書には他にも、様々な生き物の生き方が描かれています。皆さんも本書を読むことで、日常の新しい発見があれば幸いです。

(書記補 教務課)

## 随 想

### 便利になって思うこと

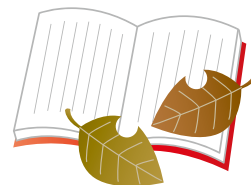
事務局長 石崎 和文

私は、今年4月15日付けで歯学部の事務局長を拝命致しました。私自身、日本大学に奉職して30数年経ちますが、今回が2度目の学部間の異動となります。この度の異動は、コロナ禍の中、校舎に学生がいないという異常事態で、全面遠隔授業となるなど、今まで想像することのできない特異な状況でありました。異動当初は、何も分からず、ご迷惑をおかけしたこともありましたが、最近は、少しずつですが慣れてきたところです。

ところで、私が大学に入職した当時は、手作業の仕事が主で、今のように1人1台にパソコンが配備されることなどまったく考えられませんでした。ましてやインターネットを利用してリモートで仕事をしたり、自宅で講義を受けたりできるようになるとは想像すらできませんでした。今は、本当に便利な世の中になったと改めて感じています。私が入職して1年後くらいに、ワープロ(文書作成専用機)が各課にやっと1台配置され、それを交替で使って仕事をしていました。スマホはもとより携帯電話などありませんし、ポケベルがやっと普及し始めた頃です。入職後3年くらいに導入されたパソコンは、当時としては最新鋭のPCで50万円くらいしたと記憶していますが、今とは比べものにならないくらい処理速度が遅いものでした。

当時、先輩から「コンピュータに頼った仕事をしていてはダメだ。」と教わりました。確かに一部の人のしか分からない仕事をコンピュータ任せにしていると故障した時にはどうにもならないことがあります。でも、当たり前PCやスマホ、インターネットを使っている現代では、それ自体がなくなることが想像できなくなっています。

便利になっている筈の現代ですが、時間はどんどん足りなくなっているような気がしています。「ワークライフバランス」と言葉にするのは簡単ですが、私たちはまだまだ努力を重ね、思いやりと工夫をもって仕事にあたらなければならないと思う今日この頃です。





## クラス短信



### 第2学年 角 尚紀

2019年12月以降世界中で広がりを見せているCOVID-19は様々な人の暮らしの在り方を変えた。本来、対面で行うのが当たり前であった会議や授業がオンラインでの非対面による会議や授業となった点などは我々大学生が実感する最も大きな暮らしの変化であろう。そう、コロナ渦では今出来る事を出来る範囲で行う、または楽しむ事が求められているのだ。従来、学生の意見交換や学生同士がコミュニケーションをとる場であった会食は当然の事ながら自粛を促されているのが現状だ。そこでコロナの時代に適応した「リモート」での会食へと変化した。言わばビデオ通話を利用した非対面の会食である。これは今できる事を今できる範囲で楽しむ例の一つであると考え。実際に試してみると、確かに物足りない点も存在する。しかし、従来の会食とは違った楽しさ、新鮮味や気軽さがあったのも事実だ。新しい発想や手法に見向きもせず試さないのも一つの選択肢であろう。しかし、本当にそれでいいのだろうか。出来る事が限られているこの時代だからこそ、食欲に挑戦していく姿勢が大切だと私は思う。新しく家でできる趣味を探してみるのもいいだろう。また、普段読まないような本に挑戦してみるのもいいだろう。コロナが明けた時に以前と変わらぬ自分ではなく、何か新しい趣味や知識を得て深みの増した自分を目指してみてもはどうだろうか。私は自宅でハーブを育ててみたり、果実酒を漬けたりと在宅を共に楽しめるような物を作る試みを始めた。これらが程よく食べ頃や飲み頃となる頃には感染症の波が収まり、大学で講義を受けられる日常が戻ってくることを願うばかりだ。



### 第3学年 橋爪 美咲

新型コロナウイルスが流行し、緊急事態宣言が出され一歩も外に出ることができないなど今まで経験したことのないことが多くありました。緊急事態宣言が解かれてからも外出時は必ずマスクを着用し、密にならないようソーシャルディスタンスをとり、人との接触は極力避けるという日常が続いています。この2年間大学に通い、休み時間に友人と会話をしたり昼食を一緒に取ったり、部活動をするのが当たり前だと思っていました。しかし、新型コロナウイルスの影響で遠隔授業が主体となり今まで当たり前であったこともできなくなってしまいました。

遠隔授業開始当初は授業やテスト、課題など不安はありましたが今ではこの環境にも慣れ、自分の時間が以前よりも増えたと感じています。予習復習を充分にして授業に取り組み、今まで以上に健康にも気を使うようになり軽い運動もするようになりました。

このようなライフスタイルをこれからも続けて行こうと思います。

### 第3学年 西田 哲才

本学部に入學してはや3年、学生生活も残り半分となり、折り返しの年度となって参りました。学問への興味深さが増していくことに胸を高鳴らせてきた矢先、目の前に立ちはだかったのは未知のウイルスとの戦いでした。講義や実習はおろかクラブ活動等の学生活動、さらにはプライベートでの外出の自粛を迫られ、思い描いていた生活を送ることができなくなってしまいました。焦燥や不安、恐怖といったストレスを感じる毎日。しかし、しばらく経って私はふと思いました。「これは周りとの差をつけられる機会」だと。そう思った途端、今自分にできる生産性の高いことは何かを必死に考えるようになり、行動できるようになりました。

今日、世間はウイルスとの戦いを経たことで、「医療」に対して強い関心を向けています。このような状況は、将来の医療を担うであろう我々にとってまたとない機会であり、新しい医療への礎となっていくと考えています。





## 学生支援室から

学生支援室では、皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、様々な相談に応じています。どんなにささいなことでも、気になることや困っていることがあれば、気軽にご相談ください。電話相談【03-3219-8051(支援室直通)】、ご家族からのご相談も受け付けています。内容について秘密が漏れることは一切ありませんのでご安心ください。3号館1階玄関に入って右手奥に支援室の入り口があります。月曜日の昼休みは、本学教員が、水・木・金曜日の10時半～16時と火曜日の11時半～17時は、日本大学本部学生支援センター所属の臨床心理士が相談を担当しています(曜日ごとに担当するカウンセラーが異なります)。

※現在は新型コロナウイルス感染症の影響により、電話相談が中心となっているため、詳しくは支援室へ電話にて連絡下さい。



## ほけん室から

### インフルエンザ罹患後の登校停止について

インフルエンザは、例年12月～翌年3月頃までが流行の時期です。インフルエンザウイルスの感染経路は、飛沫感染・接触感染です。インフルエンザ様症状(発熱・頭痛・関節痛・全身倦怠感・咽頭痛・鼻汁・咳等の症状)が出現した場合は、医療機関を受診してください。インフルエンザの診断を受けた場合は、学校保健法に基づき(発症日を0日と数えて)、発症後5日間は出席停止、かつ解熱後2日間を経過するまでは出席停止となります。大学に登校せずに、速やかに学生課(03-3219-8004)に電話連絡をしてください。インフルエンザの学内での感染、流行を予防するため、学校保健安全法に基づく出席停止期間を厳守し、医師の指示に従い、治療に専念をしてください。インフルエンザによる出席停止期間の学業については、補講など補完対応を検討します。出席停止期間が経過し、登校する時は、必ず学生課で所定の手続きをしてください。

## NewsPlus α

### 同窓会から マスク・フェイスシールド の寄贈

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中、付属歯科病院では一日も休院することなく診療を続けて参りました。流通が止まった時期には備蓄マスクの減少が起りました。医療現場が緊迫する中、歯学部同窓会よりマスク10,000枚が寄贈され、安心して診療を続けることができました(写真上:5月26日病院長室での寄贈の様子)。

また、後期に対面で実施される実習・演習用に、歯学部学生、歯科技工専門学校生および歯科衛生専門学校生、全学生数分のフェイスシールド1,000個が、校友会準会員還付金の一部によって寄贈されました(写真下:7月2日)。

同窓の皆様へ深く感謝するとともに、心より敬意を表します。一日も早くこの状況が収束し通常を取り戻せることを願っています。



石崎事務局長、飯沼病院長、小幡同窓会長(左より)



石崎事務局長、本田学部長、小幡同窓会長(左より)

# 人 事

## = 役職任免 =

### (委 嘱)

寄附行為第24条第1項第2号による日本大学評議員 教 授 本 田 和 也	2.9.1
寄附行為第8条第1項第3号による日本大学理事 教 授 本 田 和 也	2.9.10
寄附行為第24条第1項第5号による日本大学評議員 教 授 米 原 啓 之	//
寄附行為第24条第1項第6号による日本大学評議員 参 事 石 崎 和 文	//

### (任 命)

管 財 課 主 任 主 事 高 橋 啓 人	2.7.1
日 本 大 学 副 学 長 教 授 本 田 和 也	2.9.1
庶 務 課 長 参 事 補 山 崎 和 彦	2.10.1
図 書 館 事 務 課 長 参 事 吉 田 清	//
教 務 課 課 長 補 佐 主 事 鈴 木 輝 一	//
教 務 課 主 任 主 事 久 保 美 希	//

### (解 任)

管 理 課 課 長 補 佐 参 事 補 佐 々 木 佑 介	2.6.30
庶 務 課 長 // 木 股 伸 夫	2.9.30
図 書 館 事 務 課 長 // 金 澤 宏 昭	//
教 務 課 主 任 主 事 鈴 木 輝 一	//

## = 採 用 =

常 勤 嘱 託 上 岡 香 寿 子 学 生 課 (保 健 室)	2.9.1
助 教 草 野 明 美 □ 腔 外 科 学 第 I 講 座	2.10.1

## = 再 任 =

歯 学 部 長 教 授 本 田 和 也	2.9.1
大 学 院 歯 学 研 究 科 長 // //	//
兼 総 合 歯 学 研 究 所 長 // //	//
学 部 次 長 // 米 原 啓 之	//
任 期 制 職 員 今 関 祐 介 庶 務 課	2.10.1
// 生 田 目 法 子 歯 科 技 工 室	//

## = 昇 格 =

准 教 授 助 教 林 良 憲 生 理 学 講 座	2.10.1
// 専 任 講 師 近 藤 真 啓 法 医 学 講 座	//
参 事 補 主 事 齋 藤 幸 枝 学 生 課	//
主 事 主 事 補 井 上 容 子 教 務 課	//
// // 中 村 駿 太 学 生 課	//
書 記 書 記 補 田 中 順 也 会 計 課	//
書 記 補 見 習 職 員 福 本 真 実 教 務 課	//
// // 田 中 大 和 管 財 課	//
技 手 (1 級) 技 手 (2 級) 足 立 悦 子 看 護 室	//
技 手 (3 級) 技 手 補 鈴 木 美 土 里 //	//

## = 異 動 (転 入 ・ 転 出) =

### (転 入)

主 事 高 橋 啓 人 本 部 管 財 部 から	2.7.1
参 事 補 山 崎 和 彦 本 部 人 事 部 から	2.10.1
参 事 吉 田 清 生 産 工 学 部 から	//

### (転 出)

参 事 補 佐 々 木 佑 介 本 部 学 生 部 へ	2.7.1
// 木 股 伸 夫 生 物 資 源 科 学 部 へ	2.10.1
// 金 澤 宏 昭 生 産 工 学 部 へ	//

# お 知 ら せ

## 歯 学 部 行 事 予 定

10月 4日 (日)	日本大学創立記念日
10月 11日 (日)	ワールド・カフェ
17日 (土)	編入学試験、転部試験、外国人留学生選抜
18日 (日)	ワールド・カフェ (予備日・補講)
31日 (土)	解剖体追悼法要
11月 21日 (土)	学校推薦型選抜 (公募制) 学校推薦型選抜 (付属学校等) 校友会女選抜
1月 24日 (日)	CBT
25日 (月)	卒業者発表

## 寄 付 金 の 受 け 入 れ

(令和2年8月31日現在)

### = 研 究 助 成 金 =

30万円	株式会社松風 □腔外科学第I講座へ (代表取締役社長 根来 紀行 殿)	2.7.31
60万円	株式会社ジーシー 歯科保存学第I講座へ (代表取締役社長 中尾 潔貴 殿)	2.8.25

### = 中 尾 財 団 研 究 開 発 助 成 金 =

282万2千円	Foundation Nakao for Worldwide Oral Health 歯科保存学第I講座へ	2.6.8
---------	--	-------

## 編 集 後 記

前期の遠隔授業では、配信方法を学び、授業を作り直してと、新しい事を行うことにストレスが多く、時間もかかり大変でした。はじめは、行う側の大変さに目が行っておりましたが、授業が進むと、受講する学生も同じように大変であったことが伝わってきました。しかし、多くの学生は、「新しい授業方法を良くしていきたい」という気持ちが強かったように感じました。例年以上に、学生から質問や建設的な意見を多くもらいました。

本学は「自主創造」を理念として掲げ、「問題発見・解決力」「挑戦力」「省察力」などの能力を身につけることが求められています。学生の「授業を良くしよう」という姿勢が見られたことは、コロナ禍の逆境に負けず、これらの能力が身に付きつつあるのだと感じました。一方で、本学を卒業した私は発揮出来たのか、省察が必要と思います。

遠隔授業ができる環境を準備していただいた教職員の皆さん、そして、真面目に授業に取り組んでくれた学生に感謝いたします。(M. M)

表紙の写真は佐藤 紀子先生 (健康科学分野) にご提供頂きました。

第 208 号 日本大学歯学部発行  
東京都千代田区神田駿河台 1-8-13 TEL 03 (3219) 8001